

出國報告（出國類別：其他）

參加「專利檢索（設計）專門人才研修」報告

服務機關：經濟部智慧財產局

姓名職稱：呂正和 約聘專利審查委員

派赴國家：日本

出國期間：104 年 3 月 3日至 104 年 3 月 7 日

報告日期：104 年 5 月 20日

摘要

日本特許廳與工業所有權情報研修館每年提供各類智慧財產相關訓練課程給智財相關從業人員進修，工業所有權情報研修館特於今(2015)年第一梯次(3/4～3/6)的專利檢索(設計)專門人才研修課程提供名額供本局派員參訓，此次由專利一組呂正和約聘專利審查委員出席，課程中介紹日本意匠審查之新穎性、創作性判斷基準與意匠分類、D-term 檢索之觀念，並藉由日本特許電子圖書館(IPDL)檢索系統(已自今年3月23日起變更為「特許情報月台(J-PlatPat)」)進行「意匠分類 D-term 賦予」、「先行意匠調查檢索之實機操作」及「實際案例之討論」，加深對日本意匠審查之新穎性、創作性判斷基準與 IPDL 文獻檢索系統之瞭解。

¹工業所有權情報・研修館は、平成 27 年 3 月 23 日より、新たな特許情報提供サービスとして、特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) を開始いたしました。URL : <https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>

目錄

壹、 目的	4
貳、 研修課程與科目內容.....	5
參、 活用先行意匠調查之檢索關鍵字.....	9
肆、 調查檢索實習及調查檢索結果討論.....	32
伍、 心得與建議.....	65

壹、目的

本次研修承辦單位為工業所有權情報・研修館，該協會屬日本特許廳外圍協力組織，主要在承辦日本智慧財產相關資訊服務業務，包含蒐集、保管、陳列發明、新型、設計專利相關公報，並提供閱覽等服務，且亦針對日本特許廳職員、外圍檢索中心職員及其他智慧財產相關從業人員提供一系列之研修課程。

本局本次派遣 1 名審查人員赴工業所有權情報・研修館參加為期 3 天的「專利檢索（設計）專門人才研修」訓練課程。課程內容包含意匠法概論（意匠審查基準：新穎性、創作性）、意匠近似與否及創作非容易性判斷（案例研究）與活用先行意匠調查檢索關鍵字（日本意匠分類、D-term），並藉由日本特許電子圖書館（IPDL）檢索系統進行意匠分類、D-term 賦予、先行意匠調查檢索之實機操作及實際案例之討論，加深對日本意匠審查之新穎性、創作性之觀念與特許電子圖書館（IPDL）檢索系統之認識。課程中所介紹之意匠案例及檢索實務與本局設計專利審查業務高度相關，且可直接吸收資深講師對於日本意匠審查及檢索實務之寶貴經驗，深入瞭解日本意匠分類、D-term 及檢索計巧之應用。課程中，與參加學員相互討論，分享審查及檢索經驗，為雙方更進一步的交流奠下良好的基礎。

貳、 研修課程與科目內容

此次研修課程各科目、內容、時間分配、講師與上課地點簡列如下表（如表 1、表 2 所示）。

表 1 研修課程表

日期	時間	研修科目	講師	上課地點
3/4 (二)	9：50~10：00	開講儀式	工業所有權情報・研修館	虎之門三井建物地下1樓研修教室
	10：00~14：50	意匠法概論 （意匠審查基準：新穎性、創作性）	東京大學新領域創成科學研究所 鈴木公明教授	
	15：10~17：00	意匠之近似、創作非容易性判斷（案例研究）		
3/5 (三)	10：40~12：30	活用先行意匠調查之檢索關鍵字（日本意匠分類、D-term）	特許廳審查第一部意匠課 尾曲幸輔意匠審查官	特許廳 2 樓 VDT 教室
	13：40~17：30	使用 IPDL 做先行意匠調查檢索之實習		
3/6 (四)	10：00~11：50	使用 IPDL 做先行意匠調查檢索之實習		
	13：00~16：00	分班討論		
	16：10~17：00	講師解說		
	17：00~17：10	閉講儀式	工業所有權情報・研修館	

表2 研修科目內容

研修科目	時間	內容	備註
意匠法概論	4	日本意匠審查基準新穎性及創作性講解	教材：日本意匠審查基準
意匠近似與否、創作非容易性判斷	2	案例研究	案例：藥錠（意匠登錄第 1040188 號）
活用先行意匠調查之檢索關鍵字（日本意匠分類、D-term）	2	I P D L 實機操作	教材：「付與日本意匠分類、D- term 之案例」
使用 IPDL 作先行意匠調查檢索之實習	6	I P D L 實機操作	教材：「IPDL 檢索實習」 〔意匠：包裝用容器〕
分班討論	3	就各班調查檢索之結果做近似性判斷	
講師解說	1	就各班之報告作講評	

本次研修課程的講師在「意匠法概論」部分為日本特許廳前任審查官，而在「活用先行意匠調查之檢索關鍵字」及「使用 IPDL 作先行意匠調查檢索」之實習部分為日本特許廳現任審查官。其中「意匠法概論」之講師鈴木公明教授原為日本特許廳審查官，目前借調至東京大學新領域創成科學研究所，「活用先行意匠調查之檢索關鍵字」及「使用 IPDL 作先行意匠調查檢索之實習」之講師尾曲幸輔意匠審查官（進入特許廳第 12 年），目前擔任意匠審查機械化企劃調整室課長助理（負責分類資料）。

本次研修課程內容中之「意匠法概論」、「意匠之近似、創作非容易性判斷」與去年及前年日本意匠審查官來台交流講授之講義內容²並無差異，該講義內容已詳實且完整的介紹有關日本意匠審查基準之新穎性及創作性判斷，本報告僅就意匠審查及意匠侵害之近似判斷作法做一比較整理（如表 3 所示），其餘將不再贅述。本報告將針對授課內容中與本局設計審查檢索實務有關之日本意匠分類、D-term 及如何於 IPDL 以日本意匠分類、D-term 做先行意匠調查檢索之議題，進行較為深入之介紹，希冀藉由該系統之介紹進一步了解日本意匠分類、D-term

² 參見 102、103 年台日交流設計專利審查官研討報告內容

及檢索之技巧，最後將介紹此次本局外派受訓學員於「包裝用容器」之調查檢索實習課程中所做的調查報告以及分班討論之結果。

表 3 近似判斷手法之比較

審查系（審查基準）	侵害系（起重機事件高等法院判決）
1. 判斷主體： 需要者（包含交易者）	交易者、需要者（把握最易引起注意之部分做為意匠之要部）
2. 物品之認定及近似與否之判斷 依據意匠物品之使用目的、使用狀態等，認定兩意匠之意匠物品用途及機能 因意匠係為物品之形態，所以意匠之近似必須以比對之意匠物品其用途及機能相同或近似為前提	僅認定「物品之共通」。參酌意匠物品之性質、用途及使用態樣（把握其要部）
3.形態之共通點及差異點之個別評價：	
(1) 比對觀察時是否為引起注意之部分的認定及評價 (a) 估意匠整體之比例的評價 (b) 物品大小差異之評價 (c) 依據物品之特性，是否為易於觀察之部分的評價 (d) 物品內部形態之評價 (e) 僅於物品流通時視覺觀察之形態的評價	共通點、差異點之認定
(2) 依據與先行意匠群之比對的評價 (a) 以先行意匠調查為前提之共通點評價 (b) 以先行意匠調查為前提之差異點評價	參酌是否具有公知意匠所不具有之新穎創作部分（把握最易引起注意之部分做為意匠之要部）
(3) 具有機能性之形態及材質所形成之形態處理 (a) 機能性形態之評價 (b) 從物品之機能面需要而附加之花紋的評價 (c) 材質所產生之花紋、色彩的評價	參酌意匠物品之性質、用途及使用態樣，以及是否具有公知意匠所不具有之新穎創作部分（把握最易引起注意之部分做為意匠之要部）
4.意匠整體之近似與否判斷 依據兩意匠形態之共通點及差異點	〈要部認定〉 在判斷意匠近似與否時，必須以意匠整

之個別評價，以意匠整體綜合觀察兩意匠所有之共通點及差異點時，判斷對需要者（包含交易者）是否會產生不同之美感

(a) 共通點及差異點之綜合判斷

(b) 意匠物品之整體形態（基本構成態樣）

「意匠物品之整體形態（基本構成態樣）」，可以說是意匠之骨骼，因其對透過視覺引起美感之影響最大，所以意匠之近似，原則上，意匠物品整體形態（基本構成態樣）之共通是必要的

但，即使申請意匠與引用意匠之意匠物品之整體形態（基本構成態樣）具有差異點，該差異點皆為普通習見之形態，且各部之形態之共通點顯著時，也有因共通點凌駕意匠物品之整體形態（基本構成態樣）具有之差異點而形成兩意匠近似之可能。」

(c) 申請之意匠中利用到之公知形態

「申請之意匠中利用到之公知形態對近似與否判斷之影響程度，與新穎之形態相較一般都變小。但，意匠係以整體之有機組合才能成立，即使共通點或差異點之形態為公知之形態，也不能單純排除該共通點或差異點，而僅以其他之共通點及差異點作為判斷。公知形態之組合為新穎時，以該組合之態樣進行評價。」

(d) 意匠構成要素間之關係

(e) 與相同物品領域既有之近似與否判斷案例之關係

「一般，比對之兩意匠之共通點與差異點對意匠整體之美感所帶來之影響程度評價，與相同物品領域既有之近似與否判斷案例相同時，其結果與既有之近似與否判斷案例相同。」

體做為觀察，參酌意匠物品之性質、用途及使用態樣，以及是否具有公知意匠所不具有之新穎創作部分，把握交易者、需要者最易引起注意之部分做為意匠之要部，且必須觀察登錄意匠與被控侵權意匠之意匠要部構成態樣是否共通。

〈近似判斷〉

「本件意匠與被控侵權意匠…認定之構成一致，且被控侵權意匠…具有本件意匠認定之要部，兩意匠整體觀察時，予看者產生共通之美感，認定被控侵權物近似於本件意匠。」

*地方法院判決（參考）

「…依本件意匠與被控侵權意匠之一致點，被控侵權意匠…具有本件意匠之要部構成，依此，予看者產生混同共通之美感，認定被控侵權物近似於本件意匠。」

參、活用先行意匠調查之檢索關鍵字

前揭課程「活用先行意匠調查之檢索關鍵字」中，講師係以工業所有權情報・研修館所發行之「付與日本意匠分類、D-term 之案例」之講義作為主要教材，輔以「日本意匠分類表、D-term」、「日本意匠分類定義卡」等相關資料作為課堂上的補充說明對於「付與日本意匠分類、D-term」之內容講師以相當多的授課時間解釋「日本意匠分類表、D-term」、「日本意匠分類定義卡」之重要觀念，包含從意匠名稱、意匠之說明及圖面來解讀其所屬之意匠物品，若從意匠名稱、意匠之說明及圖面無法明確得知該物品時，則可以以該意匠名稱來檢索，檢索是否有相同意匠名稱之意匠已被分類，如果查無與該意匠名稱相同之先行意匠時，則可透過 Google 來查詢確認該物品之所屬領域，再賦予正確之物品分類。當物品分類明確時，再針對該分類進行 D-term 分類（若該分類並無 D-term 分類時，則無需賦予 D-term 分類）。而在作意匠分類時，需注意每一意匠僅能賦予一個意匠分類，但 D-term 則依日本意匠分類定義卡之定義，可以賦予多個 D-term。

一、 研修學員的事前準備

事前，由工業所有權情報・研修館將賦予「日本意匠分類、D-term」之案件相關資料分送給各位研修學員，並由研修學員預先做準備，以充分了解賦予「日本意匠分類、D-term」之案件內容。

二、活用先行意匠調查之檢索關鍵字實習課程概要

「活用先行意匠調查之檢索關鍵字」之目的係讓學員利用日本特許廳的IPDL檢索系統，付與實習案件之意匠的日本意匠分類、D-term，作為調查檢索實習之先前準備作業，以使在後續之調查檢索實習中能正確付與調查對象申請案之意匠的日本意匠分類、D-term，進而迅速、正確檢索到合適的先行意匠文獻，作為判斷申請案件是否具備意匠專利要件之新穎性及創作性之判斷比對資料。

三、活用先行意匠調查之檢索關鍵字之進行方式

以下為「活用先行意匠調查之檢索關鍵字」之進行方式，若講師另有指示時，則依照講師之指示來進行。

1. 在「日本意匠分類、D-term」科目中，進行先行意匠調查檢索關鍵字之日本意匠分類、D-term之構成及檢索關鍵字之使用方法學習，使用實習案件進行實際之日本意匠分類、D-term賦予，以深入了解作為檢索關鍵字之日本意匠分類、D-term之構成。
2. 在賦予「日本意匠分類、D-term」中，由學員自行使用IPDL檢索系統之日本意匠分類表、分類定義卡來賦予分類。對於付與分類之案件之意匠內容及日本意匠分類、D-term內容，有希望確認之處及不明瞭之處，可隨時請教講師。

四、賦予「日本意匠分類、D-term」案件之意匠內容及方式

(一) 案件【1】之意匠內容及「日本意匠分類、D-term」之賦予

1. 案件【1】之意匠内容



2. 賦予日本意匠分類、D-term 之方式

首先進入日本特許廳網站首頁，點選右側「目的別メニュー」之「特許等検索」之特許情報プラットフォーム（J-PiatPat）」（如圖 1 所示）後進入「J-PiatPat 特許情報プラットフォーム」網站（如圖 2 所示），再將游標移至上方之「意匠」後，將會出現 10 種選單項目（如圖 3 所示），經點選「8.分類リスト（特許庁 HP へ）」後，畫面將出現「日本意匠分類関連情報」（如圖 4 所示），經點選下方「日本意匠分類」之各分類 PDF 檔後，確認本案「包裝用容器」之日本意匠分類屬於 F4 類之 F4-740（如圖 5 所示）再由分類定義卡確認其 D-term 為 F4-740A、F4-740S（如圖 6、圖 7 所示）



圖 1



圖 2



圖 3

日本意匠分類関連情報

日本意匠分類表

	平成 19 年 4 月 1 日施行版	平成 17 年 1 月 1 日施行版	昭和 58 年施行版
日本意匠分類表の 見方	<u>日本意匠分類表の見方 (PDF : 15KB)</u>		-
表紙	<u>表紙 (PDF : 12KB)</u>	<u>表紙 (PDF : 27KB)</u>	-
凡例	<u>凡例 (PDF : 29KB)</u>	<u>凡例 (PDF : 125KB)</u>	<u>凡例 (PDF : 43KB)</u>
目次	<u>目次 (PDF : 561KB)</u>		<u>目次 (PDF : 56KB)</u>
A グループ(製造食 品及び嗜好品)	<u>A グループ (PDF : 544KB)</u>		<u>A グループ (PDF : 29KB)</u>
B グループ(衣服及 び身の回り品)	<u>B グループ (PDF : 263KB)</u>		<u>B グループ (PDF : 236KB)</u>
C グループ(生活用 品)	<u>C グループ (PDF : 415KB)</u>		<u>C グループ (PDF : 348KB)</u>
D グループ(住宅設 備用品)	<u>D グループ (PDF : 338KB)</u>		<u>D グループ (PDF : 368KB)</u>
E グループ(趣味娯 楽用品及び運動競 技用品)	<u>E グループ (PDF : 290KB)</u>		<u>E グループ (PDF : 168KB)</u>
F グループ(事務用 品及び販売用品)	<u>F グループ (PDF : 324KB)</u>		<u>F グループ (PDF : 277KB)</u>
G グループ(運輸又 は運搬機械)	<u>G グループ (PDF : 214KB)</u>		<u>G グループ (PDF : 120KB)</u>
H グループ(電気電 子機械器具及び通 信機械器具)	<u>H グループ (PDF : 359KB)</u>		<u>H グループ (PDF : 325KB)</u>
J グループ(一般機	<u>J グループ (PDF : 316KB)</u>		<u>J グループ (PDF :</u>

械器具)		<u>177KB)</u>
Kグループ(産業機械器具)	<u>Kグループ (PDF: 443KB)</u>	<u>Kグループ (PDF: 315KB)</u>
Lグループ(土木建築用品)	<u>Lグループ (PDF: 316KB)</u>	<u>Lグループ (PDF: 360KB)</u>
Mグループ(A~Lに属さないその他の基礎製品)	<u>Mグループ (PDF: 201KB)</u>	<u>Mグループ (PDF: 99KB)</u>
Nグループ(他グループに属さない物品)	<u>Nグループ (PDF: 494KB)</u>	<u>Nグループ (PDF: 15KB)</u>
組物の意匠について	<u>組物の意匠について (PDF: 97KB)</u>	<u>組物の意匠について (PDF: 290KB)</u>

圖4

<p>Fグループ事務用品及び販売用品 人間の私的、社会的な生活における事務用品及び販売用品を分類する。 グループの概要</p> <p>F 0 F 1～F 5に属さないその他の事務用品及び販売用品</p> <p>F 1 教習具、書画用品等</p> <p>F 2 筆記具、事務用具等</p> <p>F 3 事務用紙製品、印刷物等</p> <p>F 4 包装紙、包装用容器等</p> <p>F 5 広告用具、表示具及び商品陳列用具</p>	
F4-740	<p>包装用容器(吐出具付型) 包装用噴霧器, 香水用スプレー, 香水入れ, 包装用容器, ポンプ付き包装用容器</p> <p>F4-740A 模様付き</p> <p>F4-740F 巻締め部有り</p> <p>F4-740S 押し下げポンプ型</p>

圖5

意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-740	A	模様付き

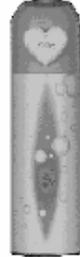
対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品
B7-012	—	香水用スプレー
F4-620	—	包装用噴霧器
F4-621	—	包装用噴霧器
F4-621A	—	包装用噴霧器
参考分類・参考物品		
分類記号	分類の名称 または 物品の名称	
B7-0100	化粧品入れ	
C0-200	家庭用噴霧器	
定義(図例必須)		
<p>1. F4-740包装用容器(吐出具付型)に該当するもののうち、模様が付されているものに付与されます。なお、包装用容器に施される模様には、レリーフのように凹凸形状のみによって表現された模様化された態様は含みません。ただし、凹凸形状に他の部分と識別される色彩や濃淡が施されている場合は、模様として取り扱います。</p> <p>2. このDタームに付与されるものの例</p>		
登録1164723号 包装用容器	登録1130023号 包装用容器	登録1185994号 包装用噴霧器
		
他のDタームとの関係(付与しない意匠)		
分類付与運用メモ (付与優先順位、懸案事項など)		
1. F4-820F巻締め部あり、F4-740R押し下げポンプ型とは、各々の要件に該当すれば付与されず。		
このDタームと複数付与しないDターム		
記号	Dタームの名称	左記Dタームを複数組み合わせた意匠には を付与する。
過去に分類した物品の名称		
包装用噴霧器	香水用スプレー	香水入れ
包装用容器	ポンプ付き包装用容器	噴霧き付き包装用容器
包装用泡吐出容器	注出器付き包装用容器	噴霧器
包装用エアゾール容器		

図6

意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-740	S	押し下げポンプ型

対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」	
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品	
B7-012	—	香水用スプレー	
F4-620	—	包装用噴霧器	
参考分類・参考物品			
分類記号	分類の名称 または 物品の名称		
B7-0100	化粧品入れ		
定義(図例必須)			
<p>1. F4-740包装用容器(吐出具付型)に該当するもののうち、ボタンを押圧して内容物を定量的に吐出するポンプ式容器に付与します。</p> <p>2. このDタームに付与されるものの例</p>			
登録1130977号 包装用容器	登録1165274号ポンプ付き 包装用容器	登録1180937号 包装用瓶	
			
他のDタームとの関係(付与しない意匠)			
分類付与運用メモ (付与優先順位、懸案事項など)			
1. F4-740A模様付き、F4-740F巻締め部ありとは、各々の要件に該当すれば付与されます。			
このDタームと複数付与しないDターム			
記号	Dタームの名称	左記Dタームを複数組み合わせた意匠には を付与する。	
過去に分類した物品の名称			
ポンプ付き包装用容器	包装用容器	包装用瓶	

圖7

(二) 案件【2】之意匠内容及「日本意匠分類、D-term」之賦予

1. 案件【2】之意匠內容



2. 賦予日本意匠分類、D-term 之方式

經點選日本意匠分類表 F 類之 PDF 檔後，確認本案「包裝用容器」之日本意匠分類屬於 F4 類之 F4-711（如圖 8 所示），再由分類定義卡確認其 D-term 為

F4-711AA、F4-711BBA、F4-711G（如圖 9、圖 10、圖 11 所示）

F4-711	包装用容器(直方体型)	包装用容器, 包装用瓶, 包装用缶, 包装用箱
F4-711A	模様付き	
F4-711AA	植物模様付き	
F4-711AB	動物模様付き	
F4-711AC	人物模様付き	
F4-711AD	器物模様付き	
F4-711AE	風景模様付き	
F4-711AF	抽象模様付き	
F4-711BA	開口部開放	
F4-711BB	ふた付き	
F4-711BBA	ふた付き(蝶番式)	
F4-711BBB	ふた付き(分離式)	
F4-711BBC	ふた付き(スライド式)	
F4-711C	取手付き	
F4-711D	窓部有り	
F4-711E	折曲げ組立て式	
F4-711F	巻締め部有り	
F4-711G	縦長型	
F4-711H	上部屋根型	

圖 8

意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-711	AA	植物模様付き

対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品
F4-50	—	包装用容器、包装用缶、包装用箱
F4-50BA	—	包装用容器(直方体形・植物模様付き)
F4-510	—	包装用瓶
F4-510BA	—	包装用瓶(広口・模様付き)
F4-510BBA	—	包装用瓶(広口・矩形・模様付き)
F4-52	—	包装用缶
F4-530	—	包装用箱
F4-530D	—	包装用箱(上部屋根型)
F4-530E	—	包装用箱(模様付き)
F4-531	—	提げ手付き包装用箱
F4-531BA	—	提げ手付き包装用箱(直方体形・模様付き)
F4-532	—	陳列型包装用箱
F4-532A	—	陳列型包装用箱(ふた折返し表示型)
F4-532B	—	陳列型包装用箱(つり下げ型)
F4-533	—	有孔型包装用箱
F4-533BA	—	有孔型包装用箱(直方体形・模様付き)
参考分類・参考物品		
分類記号	分類の名称 または 物品の名称	
B7-0100	化粧品入れ	
B7-020	化粧用具入れ	
C0-112	装身具整理用具	
C0-12	小物整理皿	
C3-3700	ごみ箱	
C4-13	洗眼器及び点眼器	
C4-24	ティッシュペーパー容器等	
C4-3100	脱臭器等	
C5-3200	食品用ふた物等	
C5-4510	漬物調理用容器	
E1-430	容器おもちゃ	
F2-125	インクつぼ	
G1-500	運搬用容器等	
G1-501	運搬用容器	

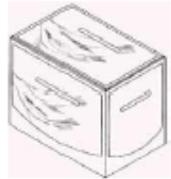
定義(図例必須)		
<p>1. ここには、直方体型であって、以下に分類される①F4-712包装用容器(円柱型)~F4-770(押しチューブ型)に含まれないもののうち、②包装用容器に植物模様が施されているものについて付与します。</p> <p>2. 植物模様に含まれるもの</p> <p>①樹木、果実、花、きのこ、海草、豆、樹葉の表皮</p> <p>②ひょうたん(ただし、加工及び付加物のふさがついているものは、器物として扱います。)</p> <p>③紋様化された植物(ただし、極度に抽象化されて原形をとどめていないものは抽象に入れます。)</p> <p>④平面に施されている場合の木目</p>		
<p>登録第1177659号 包装用箱</p> 	<p>登録第1157916号 ぶどう包装用箱</p> 	<p>登録第1124860号 包装用箱</p> 
<p>登録第1137988号 包装用容器</p> 	<p>登録第1117709号 包装用箱</p> 	
分類付与運用メモ(付与優先順位、懸案事項など)		
<p>1. この分類に係る他のDターム(F4-711B代、C、D、E、F、G、H)とは、各々の要件に該当すれば付与されます。</p> <p>ただし、F4-711A代(F4-711A模様付き、F4-711AA植物模様付き~F4-711AF抽象模様付き)とは、重複して付与されることはありません。</p> <p>2. 模様の付与ルール</p> <p>①包装用容器に施されている模様の主体となる模様を中心として付与します。</p> <p>②主体となる模様が同率の場合は、上位Dタームを優先して付与します。</p>		
このDタームと複数付与しないDターム		
記号	Dタームの名称	左記Dタームを複数組み合わせた意匠には上位Dタームを優先して付与します。
A	模様付き	
AB	動物模様付き	
AC	人物模様付き	
AD	器物模様付き	
AE	風景模様付き	
AF	抽象模様付き	
過去に分類した物品の名称		
包装用容器	包装用瓶	包装用缶
包装用箱	食品包装用容器	菓子包装用容器
ぶどう包装用箱	絵の具包装用箱	

図9

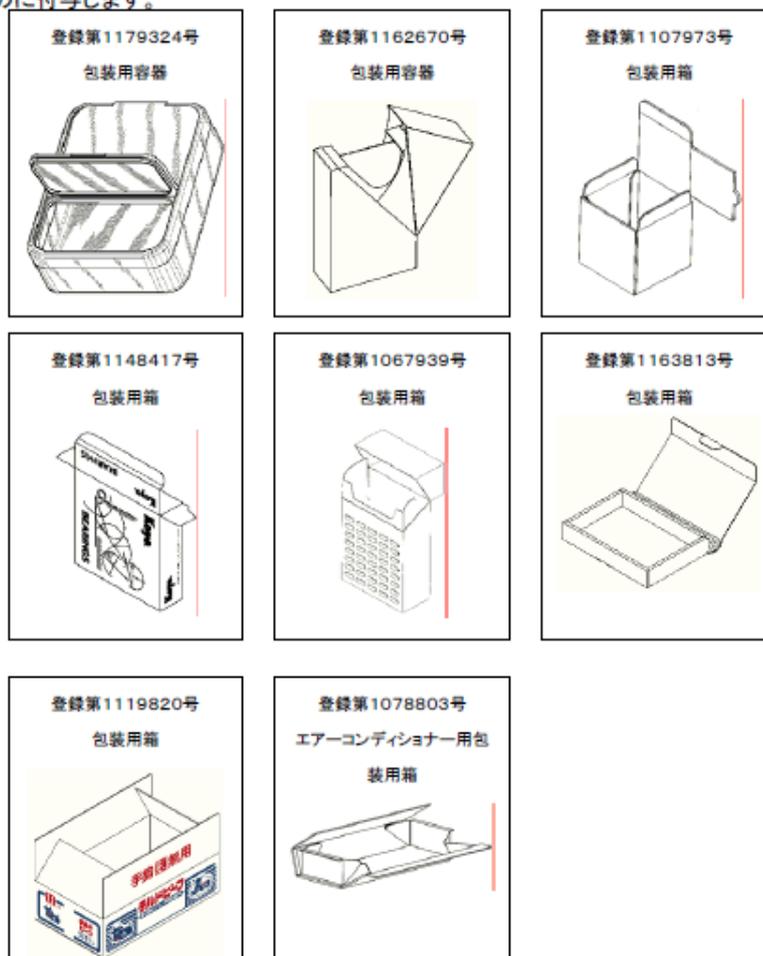
意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-711	BBA	ふた付き(蝶番式)

対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品
F4-50	—	包装用容器、包装用缶、包装用箱
F4-50B	—	包装用容器(直方体形)
F4-50BA	—	包装用容器(直方体形・植物模様付き)
F4-50BB	—	包装用容器(直方体形・動物模様付き)
F4-50BC	—	包装用容器(直方体形・人物模様付き)
F4-50BD	—	包装用容器(直方体形・器物模様付き)
F4-50BE	—	包装用容器(直方体形・風景模様付き)
F4-50BF	—	包装用容器(直方体形・抽象模様付き)
F4-510	—	包装用瓶
F4-510B	—	包装用瓶(広口)
F4-510BA	—	包装用瓶(広口・模様付き)
F4-510BB	—	包装用瓶(広口・矩形)
F4-510BBA	—	包装用瓶(広口・矩形・模様付き)
F4-511	—	提げ手付き包装用瓶
F4-511A	—	提げ手付き包装用瓶(模様付き)
F4-52	—	包装用缶
F4-52B	—	包装用缶(直方体形)
F4-52D	—	包装用缶(上部突出型)
F4-530	—	包装用箱
F4-530B	—	包装用箱(直方体形)
F4-530D	—	包装用箱(上部屋根型)
F4-530E	—	包装用箱(模様付き)
F4-531	—	提げ手付き包装用箱
F4-531B	—	提げ手付き包装用箱(直方体形)
F4-531BA	—	提げ手付き包装用箱(直方体形・模様付き)
F4-532	—	陳列型包装用箱
F4-532A	—	陳列型包装用箱(ふた折返し表示型)
F4-532B	—	陳列型包装用箱(つり下げ型)
F4-533	—	有孔型包装用箱
F4-533B	—	有孔型包装用箱(直方体形)
F4-533BA	—	有孔型包装用箱(直方体形・模様付き)
F4-56	—	包装用かご
参考分類・参考物品		
分類記号	分類の名称 または 物品の名称	
B7-0100	化粧品入れ	
B7-020	化粧用具入れ	
C0-112	装身具整理用具	
C0-12	小物整理皿	
C3-3700	ごみ箱	
C4-13	洗眼器及び点眼器	

C4-24	ティッシュペーパー容器等
C4-3100	脱臭器等
C5-3200	食品用ふた物等
C5-4510	漬物調理用容器
E1-430	容器おもちゃ
F2-125	インクつぼ
G1-500	運搬用容器等
G1-501	運搬用容器

定義(図例必須)

1. ここには、直方体型であって、以下に分類される①F4-712包装用容器(円柱型)~F4-770包装用容器(押しチューブ型)に属さないもののうち、②ふた付きのもので、ふたの構造形式が蝶番式であるものに付与します。



なお、包装用箱において、糊しろ部分あるいは蓋(フラップ部分)が接着している状態のものは、糊をはがした状態で蓋として利用されることはあっても、接着されていることから、密封されている状態のものであって、蓋が無い状態です。ただし、接着されているのかふた付きなのか判別できないもの、又は明らかに接着され密封されているものと判断されるもの以外のもので、蓋の構造形式が蝶番式ふた以外と示されている場合を除き、蝶番式ふたに付与します。



他のDタームとの関係(付与しない意匠)

分類付与運用メモ (付与優先順位、懸案事項など)

1. 他のDターム(F4-711A代、C、D、E、F、G、H)とは、各々の要件に該当すれば付与されます。ただし、F4-711BA(開口部開放)、F4-711BBふた付き、F4-711BBAふた付き(蝶番式ふた)、F4-711BBBふた付き(分離式ふた)、F4-711BBCふた付き(スライド式)の中から1つだけ必ず選択して付与します。
2. F4-711BBBふた付き(分離式ふた)、F4-711BBCふた付き(スライド式)とは、ふたの構造形式により各々に付与し、いずれにも該当しない構造形式のふたあるいは蝶番式ふたとその構造形式が異なる形式のふたとが組み合わせられている場合には、F4-711BB(ふた付き)が優先して付与されます。

このDタームと複数付与しないDターム

記号	Dタームの名称	左記Dタームのうち、F4-711BA(開口部開放)を除いて、複数組み合わせた意匠にはF4-711BBが付与されます。
BA	開口部開放	
BB	ふた付き	
BB	ふた付き(分離式)	
BC	ふた付き(スライド式)	
過去に分類した物品の名称		
包装用容器	包装用瓶	包装用缶
包装用箱	食品包装用容器	菓子包装用容器
ぶどう包装用箱		

圖10

意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-711	G	縦長型

対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品
F4-50	—	包装用容器、包装用缶、包装用箱
F4-50B	—	包装用容器(直方体形)
F4-50BA	—	包装用容器(直方体形・植物模様付き)
F4-50BB	—	包装用容器(直方体形・動物模様付き)
F4-50BC	—	包装用容器(直方体形・人物模様付き)
F4-50BD	—	包装用容器(直方体形・器物模様付き)
F4-50BE	—	包装用容器(直方体形・風景模様付き)
F4-50BF	—	包装用容器(直方体形・抽象模様付き)
F4-510	—	包装用瓶
F4-510B	—	包装用瓶(広口)
F4-510BA	—	包装用瓶(広口・模様付き)
F4-510BB	—	包装用瓶(広口・矩形)
F4-510BBA	—	包装用瓶(広口・矩形・模様付き)
F4-511	—	提げ手付き包装用瓶
F4-511A	—	提げ手付き包装用瓶(模様付き)
F4-52	—	包装用缶
F4-52B	—	包装用缶(直方体形)
F4-52D	—	包装用缶(上部突出型)
F4-530	—	包装用箱
F4-530B	—	包装用箱(直方体形)
F4-530D	—	包装用箱(上部屋根型)
F4-530E	—	包装用箱(模様付き)
F4-531	—	提げ手付き包装用箱
F4-531B	—	提げ手付き包装用箱(直方体形)
F4-531BA	—	提げ手付き包装用箱(直方体形・模様付き)
F4-532	—	陳列型包装用箱
F4-532A	—	陳列型包装用箱(ふた折返し表示型)
F4-532B	—	陳列型包装用箱(つり下げ型)
F4-533	—	有孔型包装用箱
F4-533B	—	有孔型包装用箱(直方体形)
F4-533BA	—	有孔型包装用箱(直方体形・模様付き)
F4-56	—	包装用かご
参考分類・参考物品		
分類記号	分類の名称 または 物品の名称	
B7-0100	化粧品入れ	
B7-020	化粧用具入れ	
C0-112	装身具整理用具	
C0-12	小物整理皿	
C3-3700	ごみ箱	
C4-13	洗眼器及び点眼器	
C4-24	ティッシュペーパー容器等	

C4-3100	脱臭器等
C5-3200	食品用ふた物等
C5-4510	漬物調理用容器
E1-430	容器おもちゃ
F2-125	インクつぼ
G1-500	運搬用容器等
G1-501	運搬用容器

定義(図例必須)

- ここには、直方体型であって、以下に分類される①F4-712包装用容器(円柱型)~F4-770(押しチューブ型)に含まれないもののうち、さらに②立体を把握する際に、包装用容器の閉じられた状態における全体形状(直接収める容器部分に限らず、全体の形状)が、次項の「縦長型」の定義に該当する場合に付与されます。
- 包装用容器(直方体型)における「縦長型」とは、以下によって判断します。
 - ①包装用容器に天地(通常の使用状態、開蓋状態、取手の位置、模様の態様、安定性等を総合して、天地を判断します。)があれば、その方向を縦方向として、正面視における横幅に対して高さが2倍以上あるものを縦長型とします。
 - ②天地が無い場合は、立体を把握する際に縦、横、高さの要素に分け、その三要素のうち最小比率の部分を除き、他の二つの比率において、2倍以上の差を有するものを縦長型とします。
 - ③天地が明確でない場合は、縦長型には含めません。

なお、全体形状の中には、形が崩れる柔らかい材質で作られる紐、ベルト等の取手は、含まれません。

目安



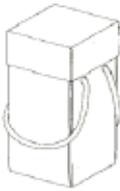
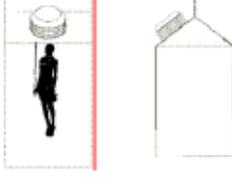
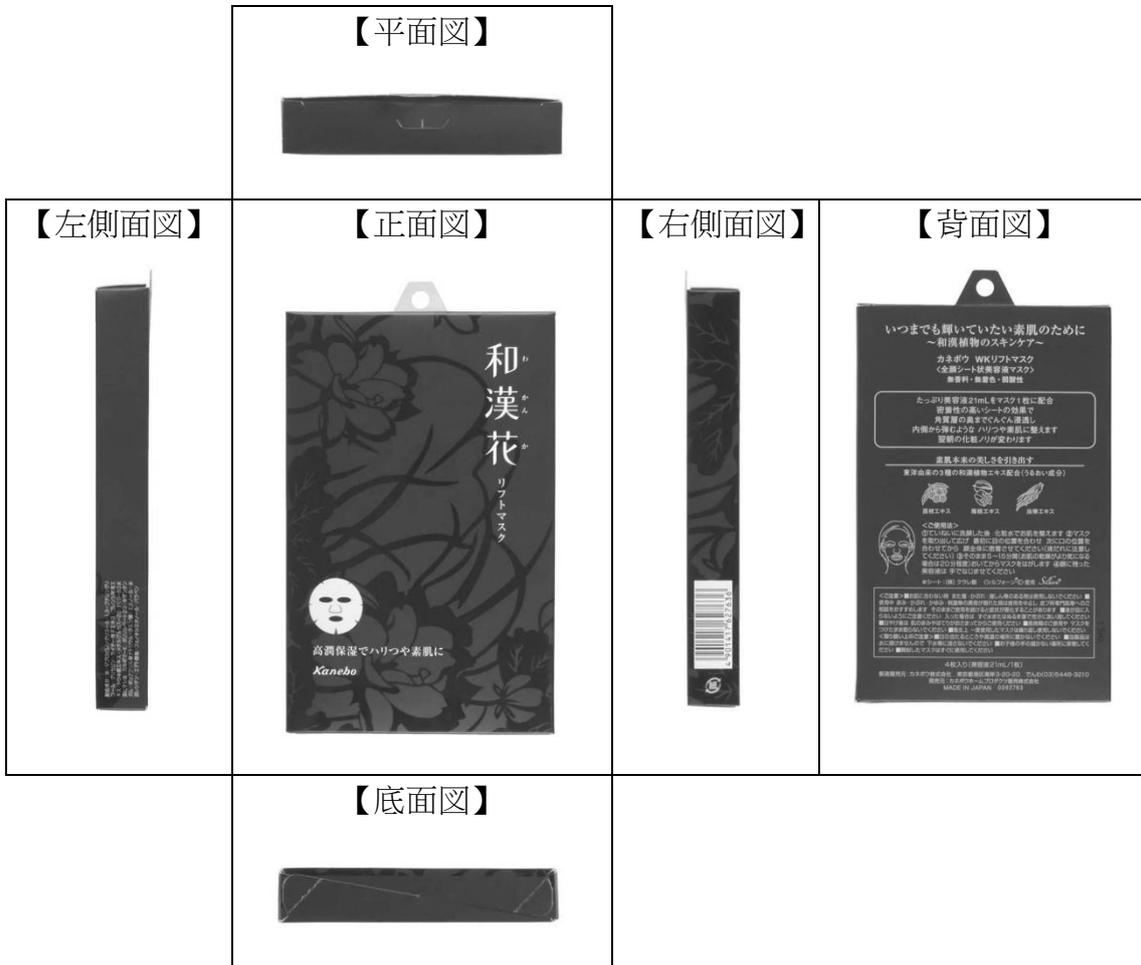
3. その他含まれるものの例		
登録第1143806号 包装用箱	登録第1187105号 包装用缶	登録第1108932号 包装用容器
		
他のDタームとの関係(付与しない意匠)		
分類付与運用メモ (付与優先順位、懸案事項など)		
<p>1. このDタームには、以下に分類されるF4-712包装用容器(円柱型)~F4-770包装用容器(押しチューブ型)が優先して付与され、それに該当しない包装用容器のうち、全体形状が直方体型のもので、かつ、縦長のものが入ります。</p> <p>2. 他のDターム(F4-711A代、B代、C、D、E、F、H)とは、各々の要件に該当すれば付与されます。</p>		
このDタームと複数付与しないDターム		
記号	Dタームの名称	左記Dタームを複数組み合わせた意匠には を付与する。
過去に分類した物品の名称		
包装用容器	包装用瓶	包装用缶
包装用箱	食品包装用容器	

圖11

(三) 案件【3】之意匠内容及「日本意匠分類、D-term」之賦予

1. 案件【3】之意匠內容



2. 賦予日本意匠分類、D-term 之方式

經點選日本意匠分類表 F 類之 PDF 檔後，確認本案「包裝用容器」之日本意匠分類屬於 F4 類之 F4-72(如圖 12 所示)，再由分類定義卡確認其 D-term 為 F4-72A (如圖 13 所示)

F4-72	包装用容器(つり下げ型).....	包装用箱, 包装用容器
	F4-72A	模様付き

圖 12

意匠分類記号	意匠分類の名称
F4-72	包装用容器(つり下げ型)

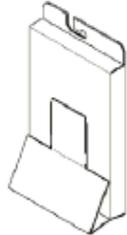
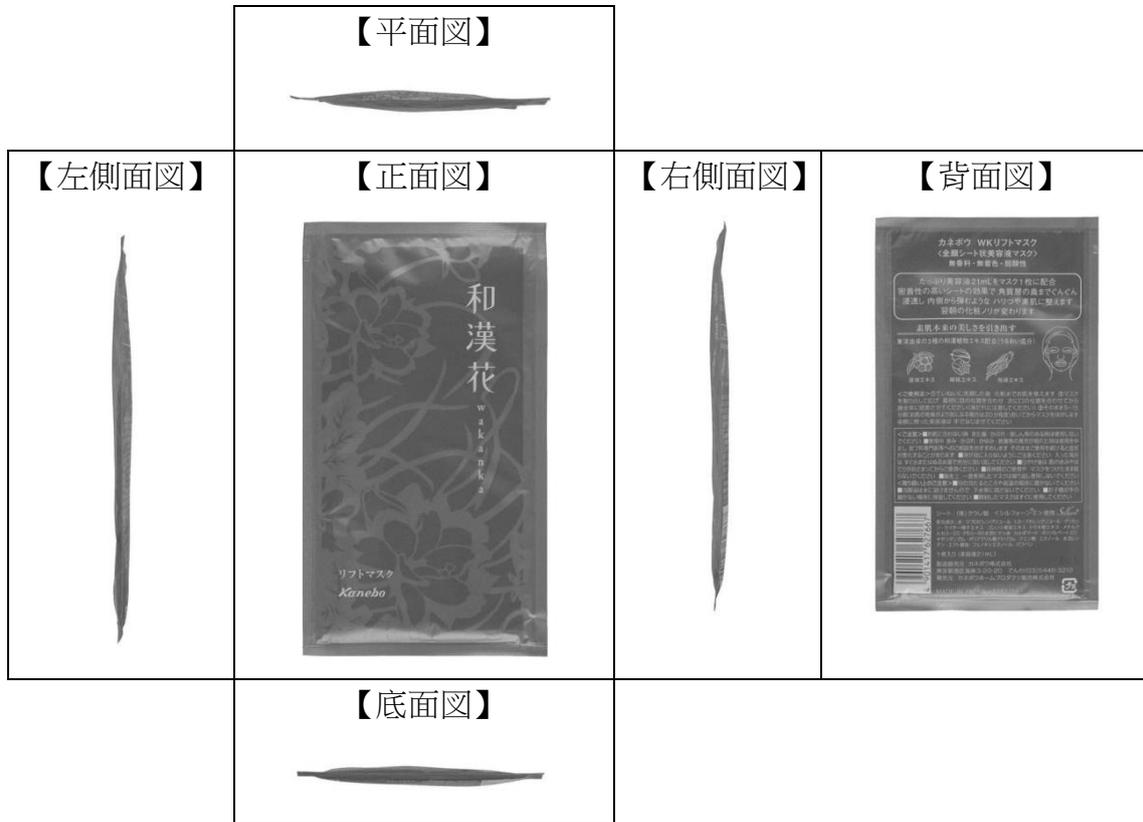
対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」	
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品	
F4-532	—	陳列型包装用箱	
F4-532B	—	陳列型包装用箱(吊り下げ型)	
参考分類・参考物品			
分類記号	分類の名称 または 物品の名称		
F4-32	容器付き包装用台紙		
F4-710	包装用容器		
F4-711	包装用容器(直方体型)		
F4-712	包装用容器(円柱型)		
再掲載指示			
分類記号	分類の名称 または 物品の名称		
この分類に含まれる物品			
包装用箱	包装用容器		
定義			
1. つり下げるための穴あるいはフックを有しているものについて付与します。			
2. この分類に含まれるものの例			
登録第1107109号 包装用箱	登録第1162479号 包装用容器	登録第1143650号 包装用箱	
			
他の意匠分類との関係(含まれない物品、意匠)			
分類付与運用メモ (付与優先関係、懸案事項など)			
過去に分類した物品の名称			
包装用箱	包装用容器	商品陳列包装用箱	
写真フィルム用包装箱	電球包装用箱	テニスボール包装用ケース	

圖 13

(四) 案件【4】之意匠內容及「日本意匠分類、D-term」之賦予

1. 案件【4】之意匠內容



2. 賦予日本意匠分類、D-term 之方式

經點選日本意匠分類表 F 類之 PDF 檔後，確認本案「包裝用容器」之日本意匠分類屬於 F4 類之 F4-401 (如圖 14 所示)，再由分類定義卡確認其 D-term 為 F4-401AA (如圖 15 所示)

F4-401	包裝用袋(矩形).....	包裝用袋
F4-401A	模様付き	
F4-401AA	植物模様付き	
F4-401AB	動物模様付き	
F4-401AC	人物模様付き	
F4-401AD	器物模様付き	
F4-401AE	風景模様付き	
F4-401AF	抽象模様付き	
F4-401B	まち付き	

圖 14

意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-401	A	模様付き

対応する旧意匠分類		
※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」		
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品
F4-40BA	—	包装用袋(矩形・植物模様付き)
F4-40BB	—	包装用袋(矩形・動物模様付き)
F4-40BC	—	包装用袋(矩形・人物模様付き)
F4-40BD	—	包装用袋(矩形・器物模様付き)
F4-40BE	—	包装用袋(矩形・風景模様付き)
F4-40BF	—	包装用袋(矩形・抽象模様付き)
参考分類・参考物品		
分類記号	分類の名称 または 物品の名称	
C3-371	ごみ袋	
F3-13170	封筒等	
F3-231	ファイル	
定義(図例必須)		
<p>1. 包装用袋の中で、①外形形状が矩形のものであって、かつ、②袋の表面に模様が施され、その模様が以下の模様(F4-401AA植物模様付き～F4-401AF抽象模様付き)に該当しないものが含まれます。なお、シールされた状態で表れる模様状のものは、圧着されることによって細かく表面にできる凹凸形状ですので、模様とは扱いません。</p>		
他のDタームとの関係(付与しない意匠)		
<p>1. 模様の付与ルール</p> <p>①袋に施されている模様の主体となる模様を中心として付与します。</p> <p>②主体となる模様が同率の場合は、上位Dタームを優先して付与します。</p>		
分類付与運用メモ(付与優先順位、懸案事項など)		
<p>1. 主体となる模様が重複して同比率の場合は、上位Dタームを優先して付与します。</p>		
このDタームと複数付与しないDターム		
記号	Dタームの名称	左記Dタームを複数同率に組み合わせた意匠には上位Dタームを優先して付与します。
AA	植物模様付き	
AB	動物模様付き	
AC	人物模様付き	
AD	器物模様付き	
AE	風景模様付き	
AF	抽象模様付き	
過去に分類した物品の名称		
包装用袋	包装用容器	食品包装用袋
米穀包装用袋	写真フィルム包装用袋	ウェットティッシュ包装用袋
生理用ナプキン包装用袋	ロールペーパー包装用袋	

図 15

肆、 調查檢索實習及調查檢索結果討論

調查檢索實習課程概要

「調查檢索實習」之目的係讓學員利用日本特許廳的IPDL檢索系統，檢索合適的先行意匠文獻，作為判斷申請案件是否具備意匠專利要件之新穎性之判斷比對資料，並在「檢索結果討論」中與其他學員討論調查結果。

一、 研修學員的事前準備

事前，由工業所有權情報・研修館將調查檢索案件（登錄意匠）之相關資料分送給各位研修學員，並由研修學員預先準備，以充分把握各個調查檢索案件之特徵、共通點及差異點。

二、 調查檢索實習之進行方式

以下為「調查檢索實習」之進行方式，若講師另有指示時，則依照講師之指示來進行。

1. 每位學員對於調查對象申請案之意匠，從意匠申請書及圖面來把握該意匠，整理出特徵點及與其他意匠之共通點、差異點，就各個意匠整體來認定其「意匠之物品」及「形態」。若有關連意匠申請時，先把握其與本意匠具有何種關係。
2. 依據所有調查對象申請案之意匠的認定結果，為使檢索容易化，從各個意匠之共通點及差異點來將案件作群組化。群組化之調查對象申請案，在進入檢索之前，其意匠之認定等等是否有誤，可請講師協助作確認。
3. 群組化，在每一次變更調查意匠之特徵點及檢索觀點的當中，應規劃作適宜之修正。
4. 從調查對象申請案之意匠來特定檢索之意匠分類，依據形態之特定點，隨著需要也特定D- term，在特定意匠分類及D- term上，注意擴大物品相關之物品領域，而無須絞盡腦汁。
5. 以組合完成之邏輯縮小檢索之案件，以調查對象申請案之意匠共通之「基本構成態樣」為中心，從新穎性之觀點來進行檢索，抽出近似於整體意匠之意匠作為參考文獻（這稱為一次檢索）。在此，注意不要遺漏抽出任何近似之意匠。
6. 調查對象申請案之意匠的「基本構成態樣」檢索，為把握物品之設計趨勢，除了抽出近似之意匠的作業外，也確認物品之形態、機能及使用方法之歲月變化，把握每一物品之意匠特徵是否正在轉移。
7. 從上述5所進行之一次檢索，發現調查對象申請案之意匠最相關之意匠分類及D- term，從新穎性之觀點，就調查對象申請案之意匠的「具體構成態樣」作詳細之再檢索，不單只是整體意匠，也要抽出近似於意匠特徵點之意匠作為參考文獻（稱為二次檢索）。
8. 在認定前述1及2之調查對象申請案之意匠時，特定該意匠所屬之領域及為進行創作非容易性之判斷而特定日本意匠分類、D- term。
9. 進行創作非容易性判斷時，就調查對象申請案之意匠的整體形態及特徵部分，

進行確認是否為容易創作之意匠，抽出符合公然知悉之形狀及廣為知悉之形狀等等。進入創作非容易性觀點之檢索前，以形態之哪一部分、部位作為對象進行檢索，可先向講師確認。

10. 若全部之檢索已結束，而從新穎性及創作性之觀點發現有引用例時，請判斷下列三所示作為結論之必要項目，而將其總結歸納於報告書。
11. 若全部之檢索已結束，而從新穎性及創作性之觀點而未發現有引用例時，請依據意匠法第18條之規定，導出准予登錄之結論，而將其總結歸納於報告書。
12. 報告書內容講師將作講評，若有不瞭解之處可總結歸納向講師詢問。

三、結論必要之項目

以下說明結論必要項目之標準，若講師另有指示時，則依照講師之指示來進行。

1. 調查對象申請案之要點，意匠物品之認定內容。
2. 在選擇引用例時，係以何種觀點來選擇。
3. 對於未選擇之引用例文獻，其未選擇之理由。
4. 對於選擇之引用例文獻，該文獻之內容。
5. 調查對象申請案之意匠與飲用例之一致點、相異點。
6. 物品之設計趨勢及近年之特徵點。
7. 採創作非容易性而必須組合文獻資料時，附上其理由（邏輯）。
8. 新穎性、創作性要件之討論結果。
9. 預想對上述7討論結果之反駁方向。

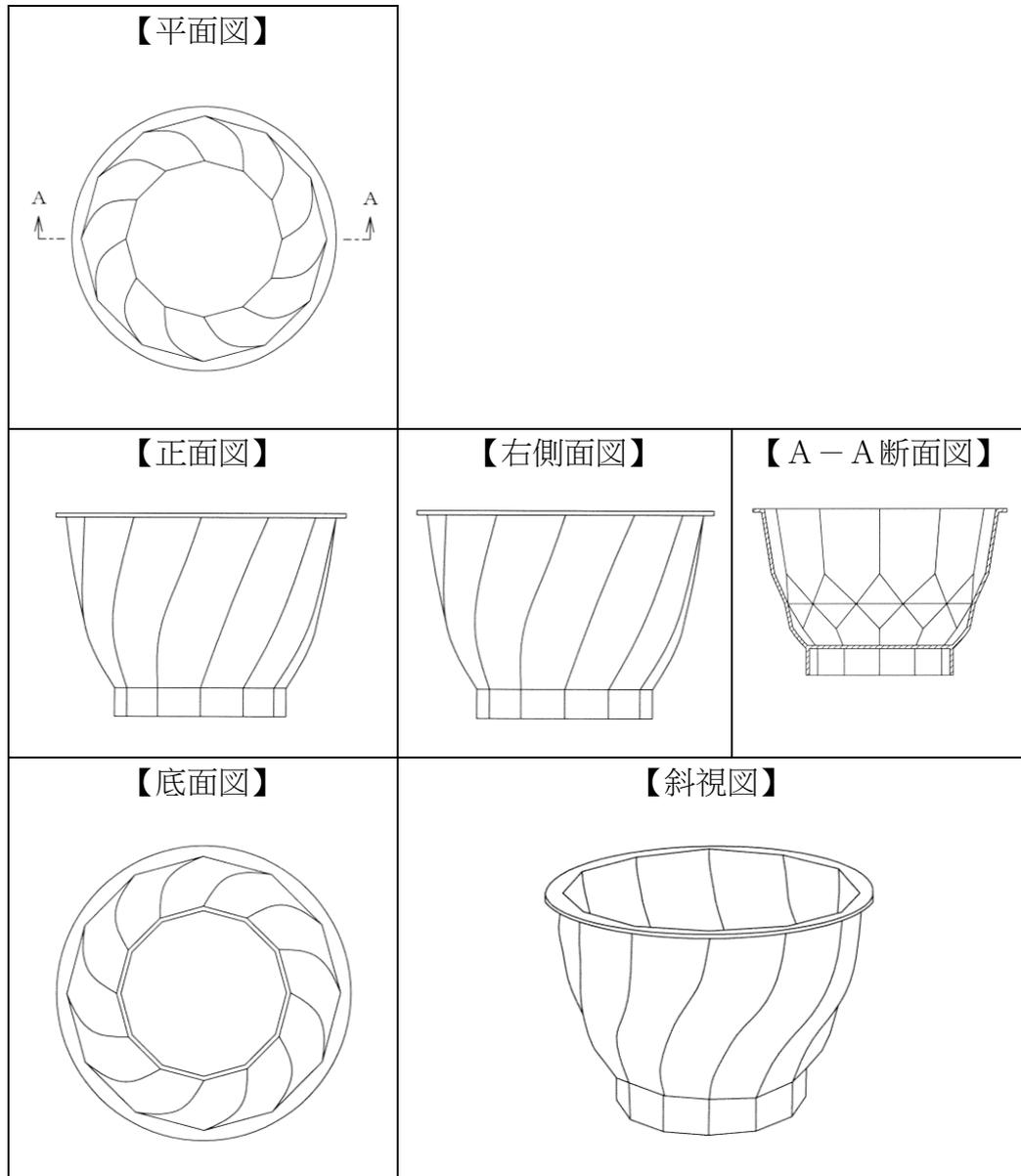
四、包裝用容器類別之調查檢索實習

以下說明本次包裝用容器類別之調查實習中，本局參訓學員根據日本特許廳之調查檢索檢流程所作出的調查結果以及班內調查結果討論概況。本次包裝用容器類別之調查檢索案件，因課程時間的限制，調查檢索實習僅針對新穎性要件進行判斷。

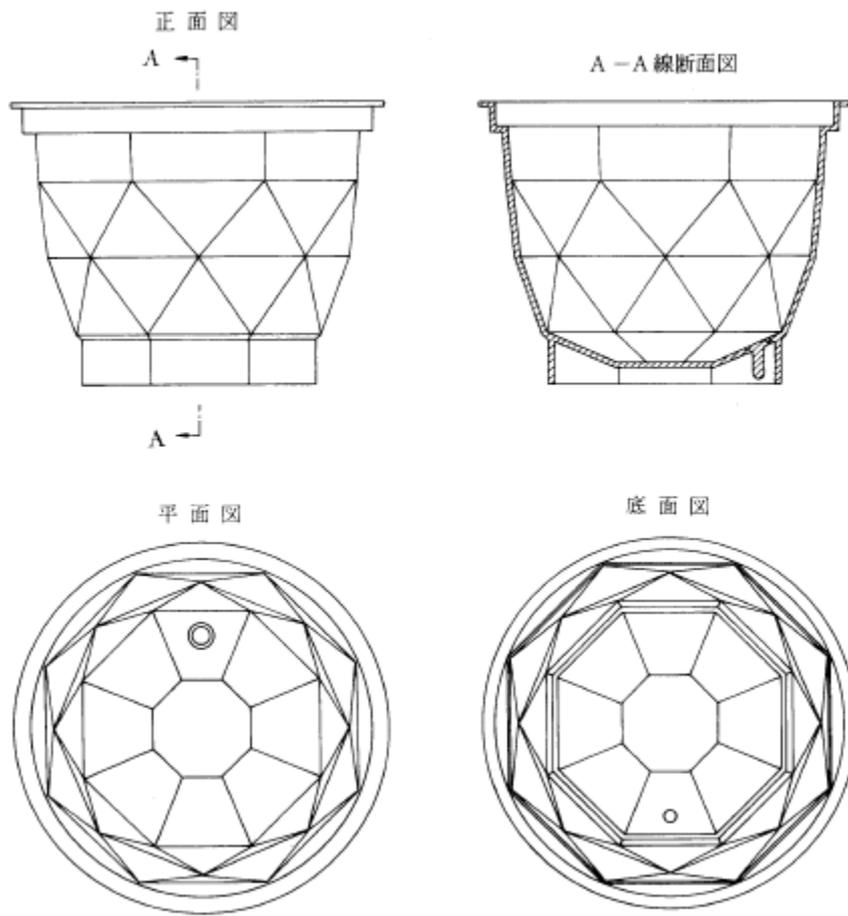
五、調查檢索案件之意匠內容及先行意匠調查結果

(一) 案件【1】、案件【2】、案件【3】之意匠內容及先行意匠調查結果

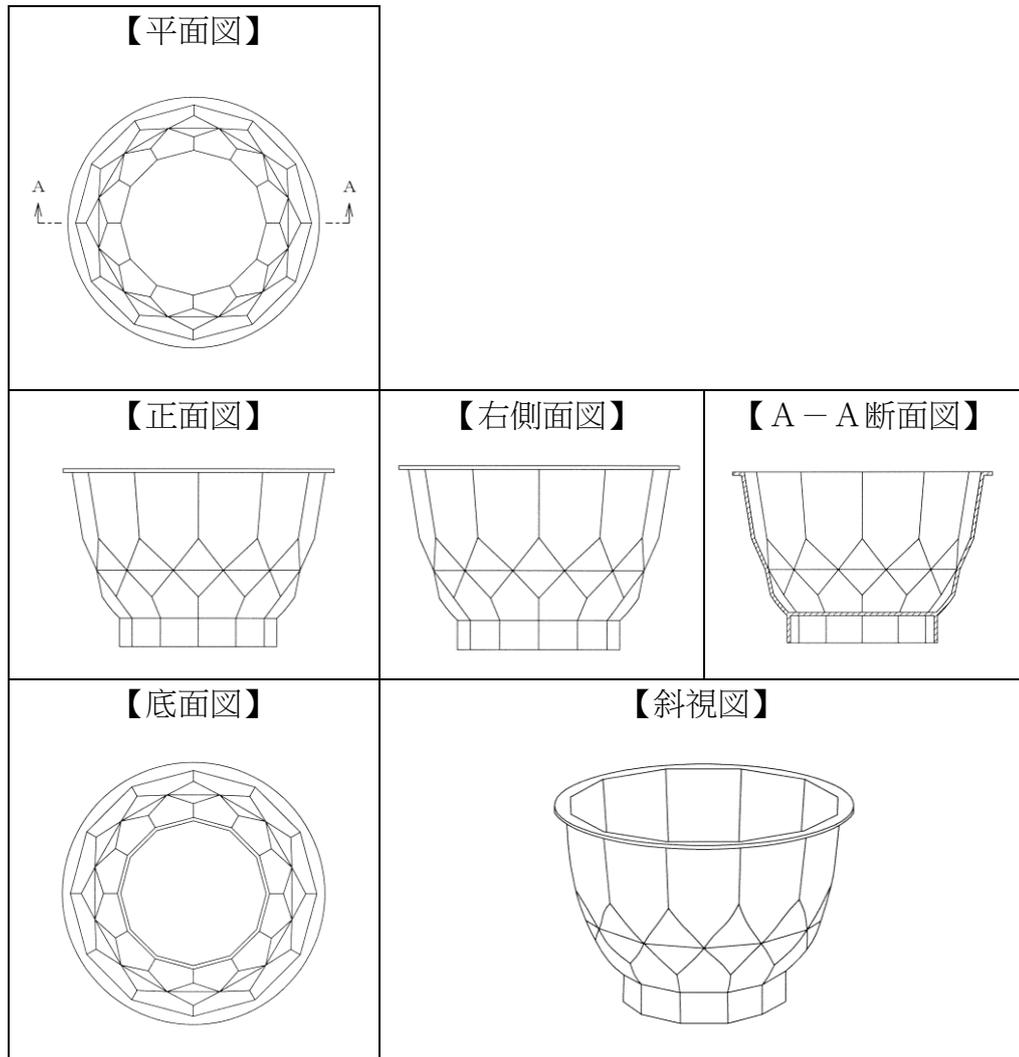
1. 案件【1】之意匠內容



案件【2】之意匠内容



案件【3】之意匠内容



2. 賦予日本意匠分類、D-term之方式

案件【1】、案件【2】及案件【3】經點選日本意匠分類表F類之PDF檔後，確認本案「包裝用容器」之日本意匠分類屬於F4類之F4-713（如圖16所示），再由分類定義卡確認其D-term為F4-713J（如圖17所示）

F4-713	包装用容器(カップ型)	包装用容器, 包装用瓶, 包装用缶, 包装用箱
F4-713A	模様付き	
F4-713BB	ふた付き	
F4-713C	取手付き	
F4-713J	円錐台型	
F4-713K	浅底型	

圖16

意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-713	J	円錐台型

対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」	
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品	
F4-50EA	—	包装用容器(円錐台カップ型)	
F4-50EAA	—	包装用容器(円錐台カップ型・模様付)	
F4-54	—	成形包装用容器	
参考分類・参考物品			
分類記号	分類の名称 または 物品の名称		
定義(図例必須)			
各種カップ形をした包装用容器のうち円錐台型のものを含む。 円錐台型とは、底から開口部までの全ての水平方向の断面形状が、円形(略円形状のものも含む)であるものを言う。			
登録1163980号 包装用容器 	登録1085070号 包装用容器 	登録1072647号 包装用容器 	登録1148734号 包装用容器 
分類付与運用メモ(他のDタームとの関係、含まれない物品など)			
このDタームと複数付与しないDターム			
記号	Dタームの名称	左記Dタームを複数組み合わせ た意匠には を付与する。	
過去に分類した物品の名称			
包装用容器	食品用包装容器		

圖17



圖19

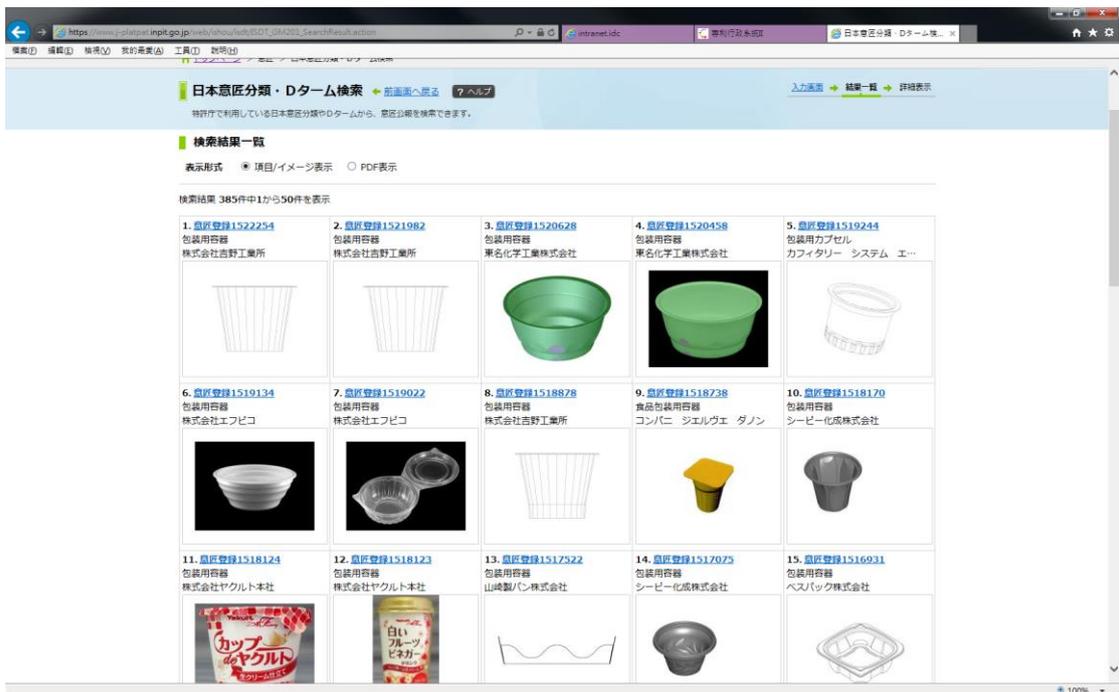
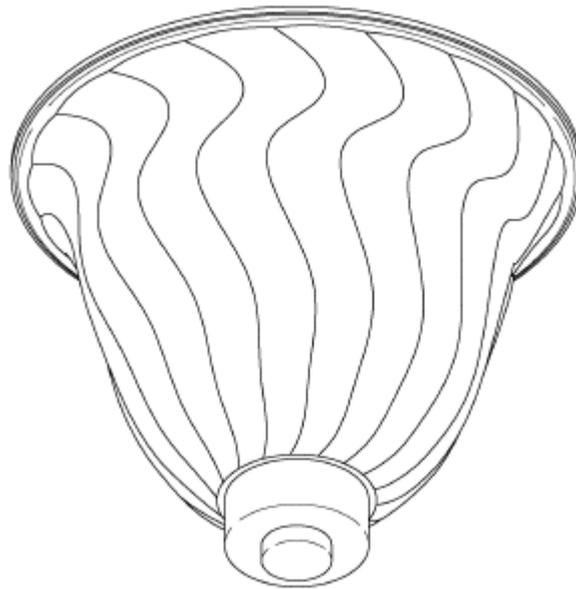


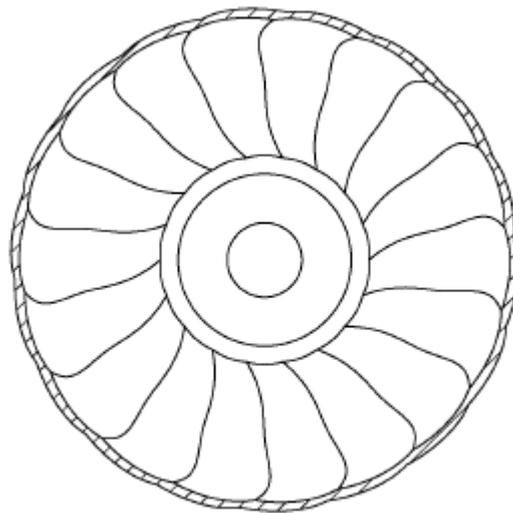
圖20

5.先行意匠調查檢索結果

案件【1】、案件【2】及案件【3】之先行意匠調查檢索結果
先行意匠：A



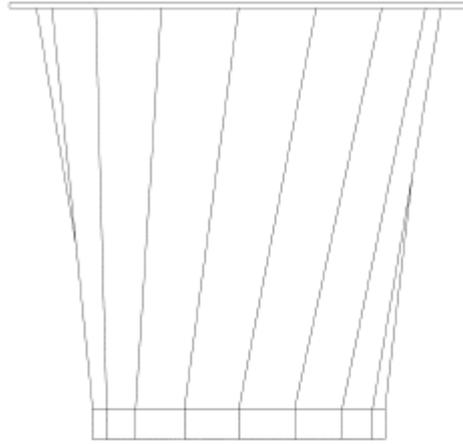
【剖面圖】



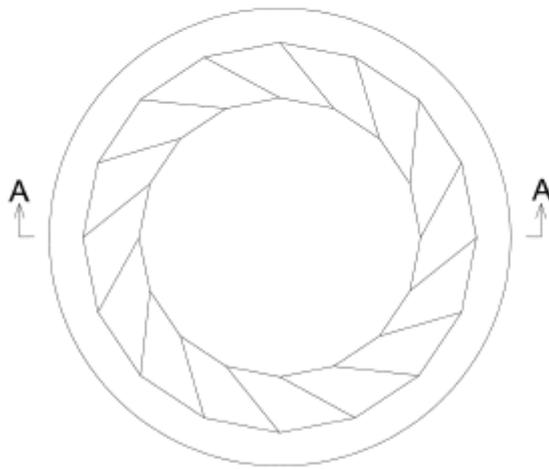
先行意匠：B

(2)

意匠登録1490455



【平面図】

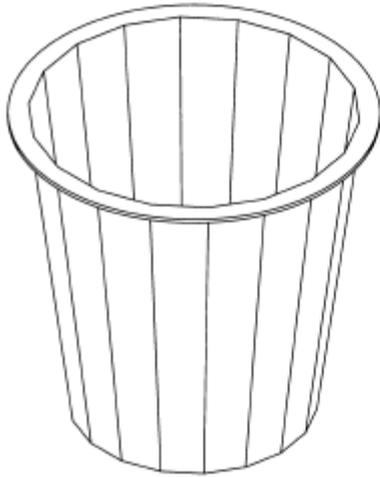


【右側面図】

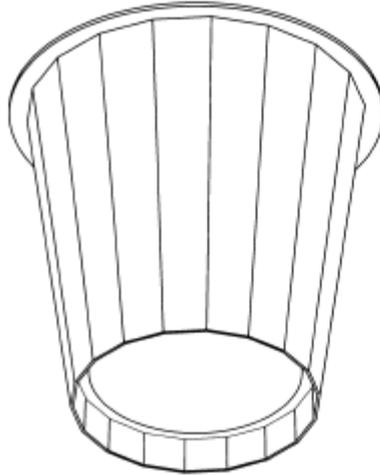
先行意匠：C

(2)

意匠登録1366970



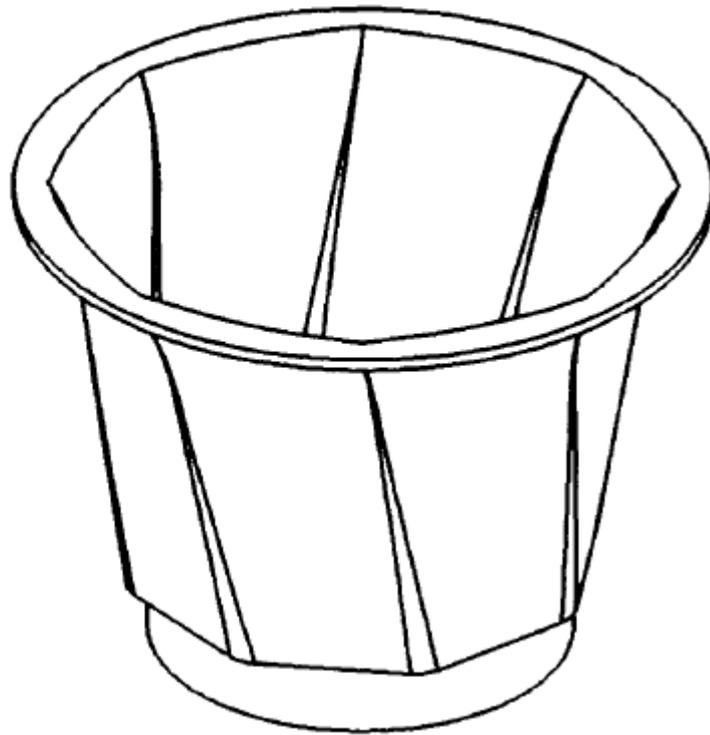
【背面・底面・左側面からの斜視図】



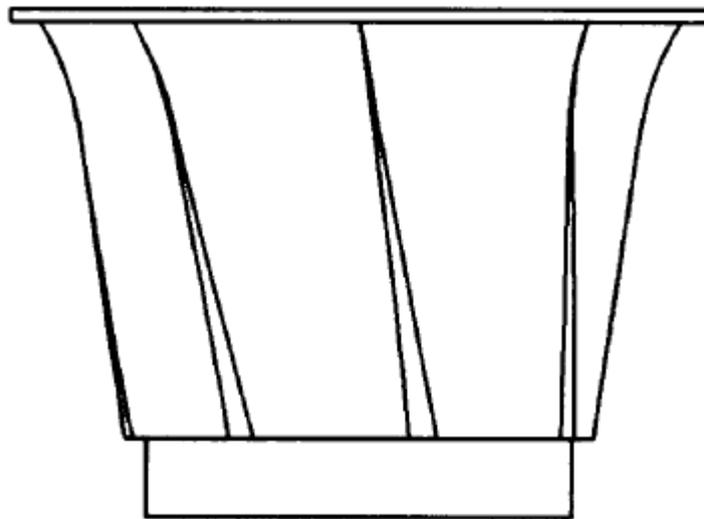
【正面図】

先行意匠：D

【斜視図】

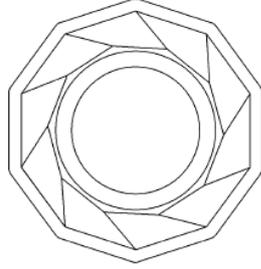


【正面図】

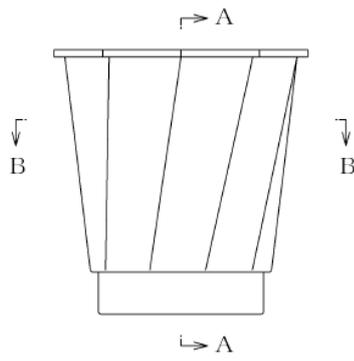


先行意匠：E

【平面図】



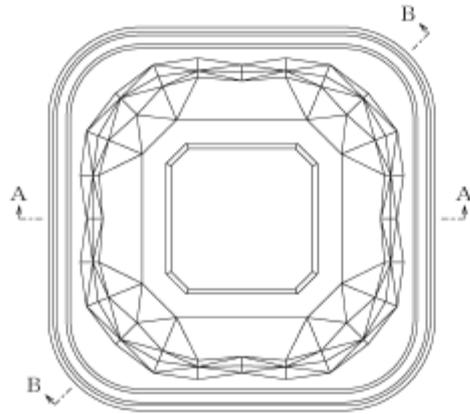
【正面図】



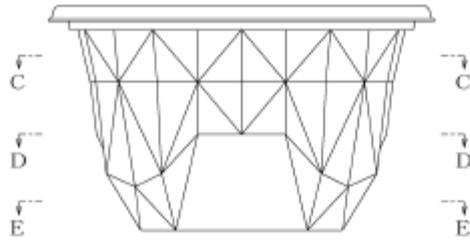
先行意匠：F

(2)

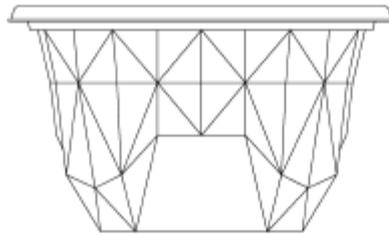
意匠登録1432474



【正面図】



【左側面図】



【後面図】

先行意匠：G



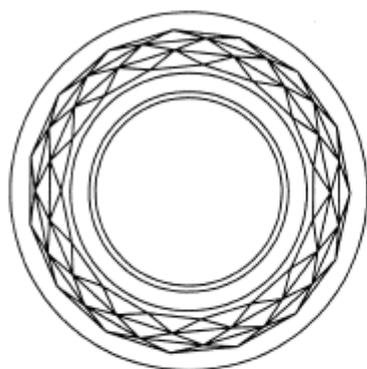
先行意匠：H



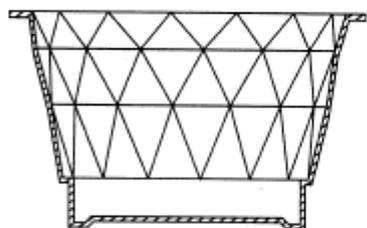
先行意匠：I

(4)

意匠登録1303672



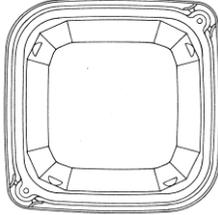
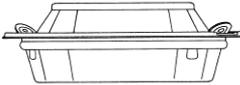
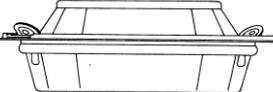
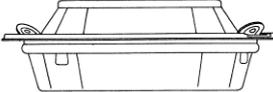
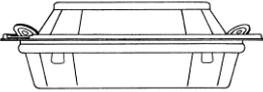
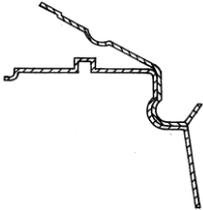
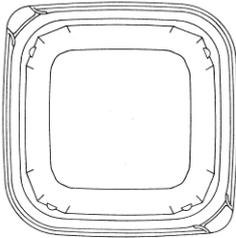
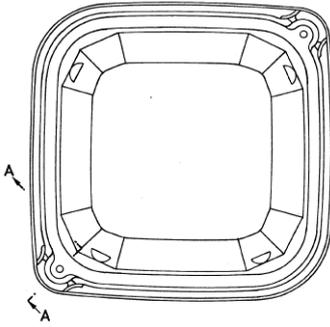
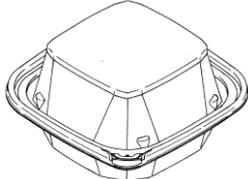
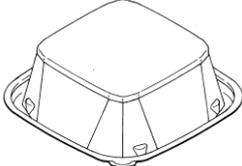
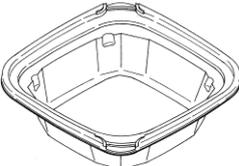
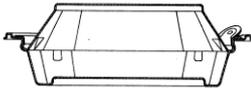
【A-A断面図】



【B-B断面図】

(二) 案件【4】之意匠内容及先行意匠調査結果

1. 案件【4】之意匠内容

	【平面図】		
			
【左側面図】	【正面図】	【右側面図】	【背面図】
			
【A-A部分端面拡大図】	【底面図】	【断面位置を示す参考平面図】	
			
【斜視図】	【蓋の斜視図】	【容器本体の斜視図】	【平面図中央横断面図】
			

2. 賦予日本意匠分類、D-term之方式

案件【4】經點選日本意匠分類表F類之PDF檔後，確認本案「包裝用容器」之日本意匠分類屬於F4類之F4-7140（如圖21所示），再由分類定義卡確認其D-term為F4-7140BB（如圖22）

F4-7140	包装用容器(トレー型).....	包装用容器, 包装用皿, 包装用箱, 包装用缶, 包装用かご
F4-7140A	模様付き	
F4-7140BB	ふた付き	

圖21

意匠分類記号	Dターム記号	Dタームの名称
F4-7140	BB	ふた付き

対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品
F4-50	—	包装用容器、包装用皿
F4-52	—	包装用缶
F4-530	—	包装用箱
F4-54	—	成形包装用容器
F4-54A	—	成形包装用容器(凹部規則配列型)
F4-54B	—	成形包装用容器(矩形)
F4-56	—	包装用かご
参考分類・参考物品		
分類記号	分類の名称 または 物品の名称	
C5-3200	食品用ふた物等	
F4-32	容器付き包装用容器	
F4-710	包装用容器	
F4-713	包装用容器(カップ型)	
F4-715	包装用容器(卵容器型)	
F4-91100	包装用枠	
F4-91200	包装用容器のふた	
F4-921	包装用緩衝具	
定義(図例必須)		
<p>1. F4-7140包装用容器(トレイ型)に該当するもののうち、ふた付きのものに付与されます。 なお、ふた付きの中には、容器部の上部を薄い紙でヒートシールされ覆われているものも含めます。</p> <p>2. このDタームに付与されるものの例</p>		
登録1186562号 包装用 容器 	登録第1127763号 包装用容器 	
他のDタームとの関係(付与しない意匠)		
分類付与運用メモ (付与優先順位、懸案事項など)		
1. F4-7140A模様付きとは、各々の要件に該当すれば付与されます。		

1
圖22

3.活用先行意匠調查之檢索關鍵字

案件【4】之日本意匠分類為F4-7140，D-term為F4-7140BB，但先行意匠中D-term為F4-7140、F4-7140A者，仍有可能出現與F4-7140BB相關之先行意匠，所以這些相關之D-term仍需作調查檢索，以避免遺漏。

4.先行意匠調查檢索

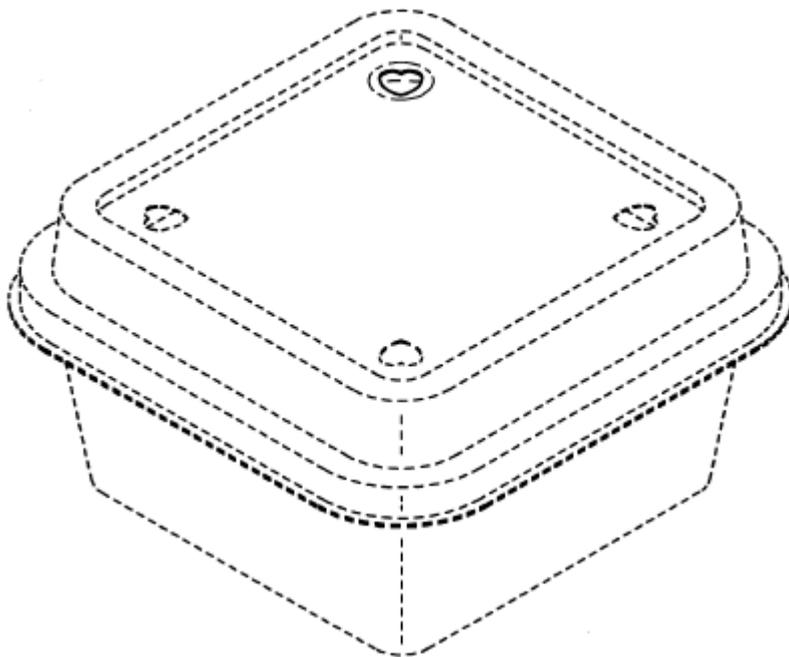
案件【4】之先行意匠調查檢索：如案件【1】之程序，只需將「檢索式」欄位內之關鍵字變更輸入「F47140A」或「F47140B」或「F47140?」即可。

5.先行意匠調查檢索結果

案件【4】之先行意匠調查檢索結果

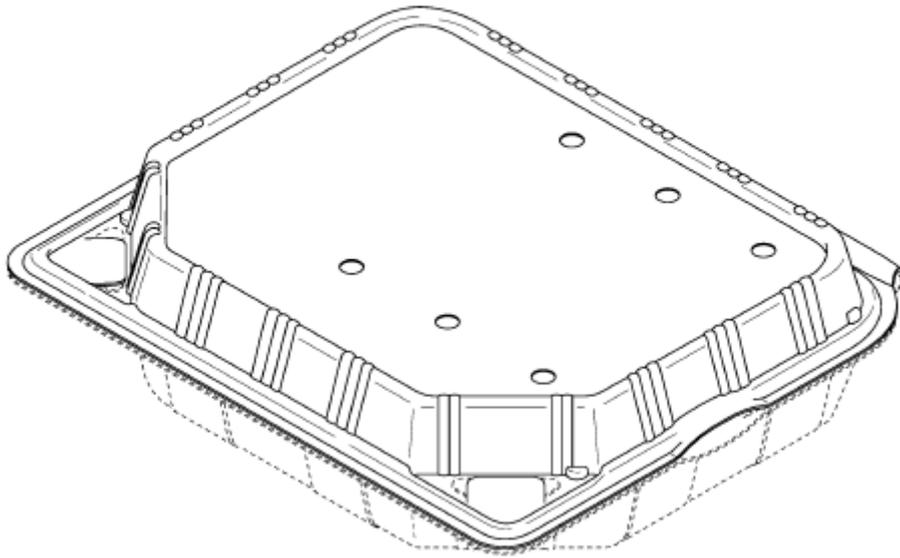
先行意匠：J

【斜視圖】



先行意匠：K

【斜視図】



先行意匠：L

(2)

意匠登録13014



(三) 案件【5】之意匠內容及先行意匠調查結果

1. 案件【5】之意匠內容



2. 賦予日本意匠分類、D-term之方式

案件【5】經點選日本意匠分類表F類之PDF檔後，確認本案「包裝用容器」之日本意匠分類屬於F4類之F4-7140，再由分類定義卡確認其D-term為F4-7140（如圖23）

意匠分類記号	意匠分類の名称
F4-7140	包装用容器(トレー型)

対応する旧意匠分類		※移行方法…全部移行「全」、一部物品を移行「一」	
旧意匠分類記号	※	分類の名称 または 移行した物品	
F4-50	—	包装用容器、包装用皿	
F4-52	—	包装用缶	
F4-530	—	包装用箱	
F4-54	—	成形包装用容器	
F4-54A	—	成形包装用容器(凹部規則配列型)	
F4-54B	—	成形包装用容器(矩形)	
F4-56	—	包装用かご	
参考分類・参考物品			
分類記号		分類の名称 または 物品の名称	
C5-3200		食品用ふた物等	
F4-32		容器付き包装用容器	
F4-710		包装用容器	
F4-713		包装用容器(カップ型)	
F4-715		包装用容器(卵容器型)	
F4-91100		包装用枠	
F4-91200		包装用容器のふた	
F4-921		包装用緩衝具	
再掲載指示			
分類記号		分類の名称 または 物品の名称	
この分類に含まれる物品			
包装用容器	包装用皿	包装用箱	
包装用缶	包装用かご		

定義

1. 「トレイ型」とは、紙、パルプ、プラスチック、アルミニウムなどの材料で作られ、①比較的肉厚が薄く一定しており(補強リブや折り重ねられている部分があってもよい。)、②容器部の上方が広く開放され(側壁に傾斜を有しています。)、③ふたがない浅い容器(容器の全体形状における高さが平面視最短の横幅に対して二分の一未満)とします。ただし、分離される蓋や容器部と接続して折り畳まれる蓋部を有していても、容器部が上記の条件を満たす場合は、含めることとします。
 なお、以下に分類されるF4-715包装用容器(卵容器型)~F4-770包装用容器(押しチューブ型)に含まれるものは除かれます。
2. この分類に含まれるものの例



3. この分類に含まれないものの例



他の意匠分類との関係(含まれない物品、意匠)

1. C5-3200食品用ふた物、食品用保存瓶、弁当箱等との関係

① 反復の使用に適した堅牢な容器は、C5-3200食品用ふた物に付与し、使いきりの比較的簡易な容器は、F4-7代の包装用容器等に付与します。

② 出願にあたっては、願書の「意匠に係る物品」の欄の記載によって分類します。

「飲食用容器」「食品用保存容器」「弁当用容器」の記載は、C5-3200に入ります。

なお、願書の「意匠に係る物品」の記載において、「包装用弁当容器」「弁当用包装容器」「包装用弁当箱」のように包装用と特定できるもの、又は、願書の「意匠に係る物品の説明」の記載において、使い捨てである旨等の説明により包装用と特定できるものについては、F4の包装用とします。

2. F4-713包装用容器(カップ型)との関係

容器の全体形状において、高さが平面視最短の横幅に対して二分の一未満の浅い容器の場合に、F4-7140包装用容器(トレイ型)等を含め、高さが二分の一以上を有する容器の場合は、F4-713包装用容器(カップ形)を含めます。

なお、ふた付きの場合は本体(蓋なし)の高さ及び直径から判断します。

3. F4-91100包装用枠との関係

① F4-91100包装用枠とは、包装用容器の内部に用いられ、直接内容物を保持するためのもので、単独で容器として使用することができないものです。

② 出願にあたっては、願書の「意匠に係る物品」の欄の記載によって分類します。

「～用枠」となっている場合は、F4-91100包装用枠に分類され、「～用容器」となっている場合は、F4-7代に分類されます。

4. F4-921包装用緩衝具との関係

① F4-921包装用緩衝具とは、商品の包装にあたって、商品と容器との間の衝撃を、吸収、緩和するためのもので、直接緩衝具自体で商品を保護しようとするものではありません。

② 出願にあたっては、願書の「意匠に係る物品」の欄の記載によって分類します。

分類付与運用メモ(付与優先関係、懸案事項など)

1. この分類には、以下に分類されるF4-7141包装用容器(トレイ型・内部仕切あり)～F4-770(押し出しチューブ型)が優先して付与され、ここでは除かれます。

過去に分類した物品の名称		
包装用容器	包装用皿	食品包装用容器
果物包装容器	食品包装用トレイ	メモ用紙用包装容器
包装用容器の中皿	包装用箱	

図23

3.活用先行意匠調查之檢索關鍵字

案件【5】之日本意匠分類為F4-7140，D-term為F4-7140，所以只需作F4-7140之調查檢索即可。

4.先行意匠調查檢索

案件【5】之先行意匠調查檢索：如案件【1】之程序，只需將「檢索式」欄位內之關鍵字變更輸入「F47140」即可。

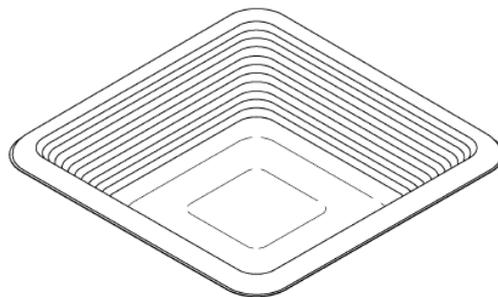
5.先行意匠調查檢索結果

案件【5】之先行意匠調查檢索結果

先行意匠：M

(2)

意匠登錄1466053



【正面圖】

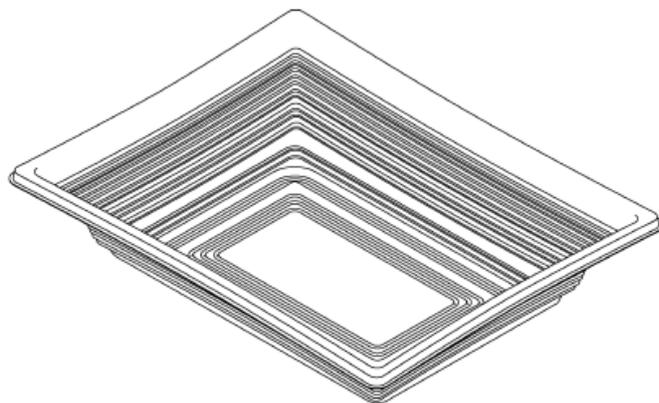


【平面圖】

先行意匠：N

(2)

意匠登録1347198



【正面図】

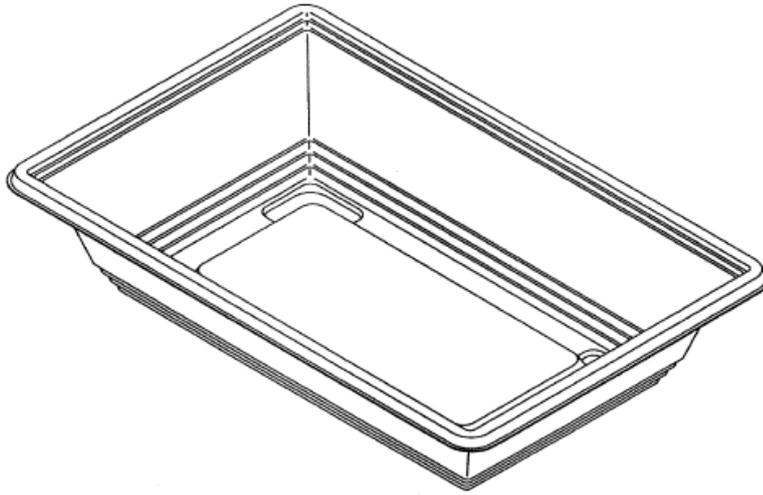


【平面図】

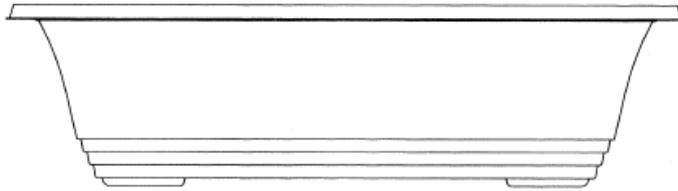
先行意匠：P

(2)

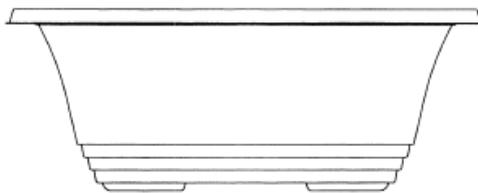
意匠登録1342280



【正面図】



【右側面図】



【平面図】

六、調查檢索結果討論

調查結果討論之進行方式係將研修學員分班，每班設有主持人、討論結果發表人及記錄人各一人，其餘學員則協助班內先行意匠文獻之整理、文獻判斷比對之討論及篩選，如下表（如表4所示）。

表4 分班討論形式

角色名稱	角色內容
1.主持人	主持討論以使得能順利完成「檢索報告書(班別討論結果)」，討論過程中班內成員均可發表個人之觀點。若班內的討論陷入僵局，得隨時向講師尋求協助。
2.討論結果發表人	將班別討論過程之重點及班別討論結果對講師及其他班別提出報告，並同時接受問題提問及針對問題提出說明(班內成員均可提出補充說明)。
3.記錄人	記錄班別討論過程之重點，並將其結果做成「檢索報告書(班別討論結果)」，以提供討論結果說明人對講師及其他班別提出報告

課程中每位學員有6小時作先行意匠調查檢索實習，基本上，在該時限內學員不可互相討論，如有檢索系統操作上的問題及檢索上不明瞭之問題，均可隨時向助理講師及講師提出尋求協助。而每位學員也均有與自己使用之電腦相對應之印表機，讓學員可以列印出所篩選先行意匠文獻，以便在「調查檢索結果討論」時供其他學員參考。以下介紹「調查檢索結果討論」所使用的文件格式及進行方式。

1.檢索報告書

為了使同班學員能清楚了解每位班內成員所做的調查檢索結果，於分班討論前每位學員均須將調查檢索後篩選出來的先行意匠文獻全部列印，以便在「調查檢索結果討論」時供班內學員參考，並將班內討論結果記載於檢索報告書內，作為討論結果發表人對各班及講師提出報告之用。檢索報告書之格式如下表（如表5所示）。

本願との引用文献、参考文献との対比

引用文献、参考文献の文献番号

一致点	
相違点	

引用文献、参考文献の文献番号

一致点	
相違点	

備考(気がついた点、質問事項など)

--

2.班內討論結果

案件【1】

(1) 本案與先行意匠 A 相較，其一致點為近似薄殼碗狀之容器，且外周面具等距離分佈之彎弧稜線狀飾紋。相異點為兩意匠外周面之彎弧稜線狀飾紋不同（從剖面圖及底面圖觀之）。

(2) 本案與先行意匠 B、C、D、E 相較，其一致點為薄殼椎柱狀容器外周面具等距離分佈之稜線狀飾紋。相異點為兩意匠之容器形態及稜線狀飾紋均不同。

(3) 結果：與先行意匠不近似。

案件【2】、案件【3】

(1) 本案與先行意匠 F、G、H、I 相較，其一致點為於薄殼椎柱狀容器外周面佈滿數排三角切割面。相異點為兩意匠外周面之三角切割面之形態及排列均不同。

(2) 結果：與先行意匠不近似。

案件【4】

(1) 本案與先行意匠 J 相較，其一致點為外觀大致呈具方椎狀蓋體之方椎狀盒體。相異點為先行意匠蓋體頂面具 R 角矩形凹槽及蓋體、盒體對角處不具卡扣（本案蓋體頂面呈平坦狀，且蓋體、盒體對角處具卡扣）。

(2) 本案與先行意匠 K 相較，其一致點為外觀大致呈具方椎狀蓋體之方椎狀盒體。相異點為先行意匠蓋體周面兩角具倒角面、環設數排平行凸肋、後方與盒體設連接部及對角處不具卡扣（本案蓋體周面兩角不具倒角面及無數排平行凸肋，且蓋體後方與盒體無連接部及對角處具卡扣）。

(3) 本案與先行意匠 L 相較，其一致點為外觀大致呈具方椎狀蓋體之方椎狀盒體及蓋體周面具四半圓錐狀凸部。相異點為先行意匠蓋體及盒體對角處不具卡扣（本案蓋體、盒體對角處具卡扣）。

(4) 結果：與先行意匠不近似。

案件【5】

(1) 本案與先行意匠 M 相較，其一致點為盒體周面皆環設階梯狀段差層（面）。相異點為先行意匠盒體外表面不具階梯狀段差層（面），本案內外面均具階梯狀段差層（面）。

(2) 本案與先行意匠 N 相較，其一致點為盒體周面皆環設階梯狀段差層（面）。相異點為先行意匠盒體底面四邊不具四長圓形凹部，本案盒體底面四邊具四長圓形凹部。

(3) 本案與先行意匠 P 相較，其一致點為盒體周面皆環設階梯狀段差層（面）。相異點為先行意匠階梯狀段差層（面）所佔範圍及盒體底面之凹部位置與本案不同。

(4) 結果：與先行意匠不近似。

伍、心得與建議

這次「專利檢索(設計)專門人才研修」訓練課程，係本局首次派員參訓，此次能成行，首先須感謝局內長官與同仁們長年來對於推動台日交流之努力。其次，須感謝日本特許廳與交流協會的協助，在啟程前即協助安排報名及資料寄送的相關準備工作。在此更要對交流協會五閑主任表達謝意，感謝其對在日研修期間住宿問題之協助。另外，更值得一提的是兩位於去年12月至本局作設計專利交流之下村意匠審查官及濱本意匠審查官在這次研修期間特地前來關心，並邀請共進午餐。雖然時間短暫，但仍能感受到日方相當重視與我方之交流，並感謝本局在推動相關工作上之努力及對來台交流期間之熱情招待。在言談間兩位意匠審查官提及特許廳對我方參與研修學員之重視，並透露出特許廳將於今年10月起針對「圖像意匠」推出「圖形比對」之調查檢索系統，該系統將對外開放，屆時本局設計專利之「圖像設計」審查將可透過該系統做先前技藝之檢索(該系統或許也能對商標審查有所助益)，待該系統推出後再將該系統之操作模式向同仁做一簡單介紹說明。另外也提及本局設計專利於審定前允許「實線改虛線、虛線改實線」之圖式修正問題之看法，在交談之間已向兩位審查官說明目前局裏正在進行設計專利審查基準之修訂討論，正朝向國際調和之方向作對應之修訂。

此次上課，講師如前述，除第一天「意匠法概論」課程由東京大學新領域創成科學研究所鈴木公明教授擔任講師外，「活用先行意匠調查之檢索關鍵字(日本意匠分類、D-term)」及「使用 IPDL 作先行意匠調查檢索之實習」均由現任特許廳意匠審查官尾曲幸輔來擔任講師；學員則多為在企業內擔任機構研發或專利事務所相關業務之人員。在研修期間學員們均相當專注聆聽並珍惜能與具審查實務經驗之講師互動的機會。本次研修課程主要係「使用 IPDL 作先行意匠調查檢索之實習」及「調查檢索結果討論」，在 IPDL 實機操作檢索系統方面，日方檢索系統之操作介面與本局國內外專利資料庫全域整合查詢系統並無太大之差異，其最大差異處在於：(1)意匠公知資料檢索：藉由輸入關鍵字即可檢索到特許廳收集之國內外刊物、國內外型錄、網路資訊及國外之意匠公報等等之文獻資料，但礙於著作權相關規定，若未得到著作權者之允諾，該文獻資料內容將不顯示圖面資料；(2)分類一覽表：可藉由日本意匠分類表及分類定義卡快速確認欲調查檢索之物品的類別；(3)國外分類一覽表：可藉由日本意匠分類表所查詢到之意匠分類，對應到羅卡諾分類、美國設計分類及韓國設計分類，有效節省在意匠公知資料檢索時在輸入國外意匠類別關鍵字時之困擾。但相對而言，該系統並無如同本局國內外專利資料庫全域整合查詢系統中之「重整」功能，而無法就所檢索之文獻資料中之某幾筆文獻資料作勾選，且調查檢索結果之文獻資料(僅限於意匠之文獻資料)每頁面僅揭示 50 筆資料(本局國內外專利資料庫全域整合查詢系統之文獻資料並不限於設計，且每頁面可揭示 100 筆資料)及調查檢索結

果之文獻資料之總筆數不得超出 1000 筆，若超出 1000 筆時必須變更調查檢索之關鍵字（本局國內外專利資料庫全域整合查詢系統並無筆數之限制）。

另外，「日本意匠分類、D-term」基於檢索之效率化，就「形態分類與 D-term 之整合」及「對應設計趨勢之變化」之觀點而新編意匠分類，以平成 17 年（2005 年）1 月為分水嶺，將之分為「新分類、新 D-term」及「舊分類、舊 D-term」，其中「新分類、新 D-term」之分類肢數共有 5036 肢（新分類 3196 肢，新 D-term 1840 肢）。但因「新分類、新 D-term」分類過於細緻化，於使用 IPDL 作先行意匠調查檢索時，其所輸入之檢索關鍵字幾乎都是為「新分類之最大公約數」，以上述之調查檢索案件【1】、【2】及【3】為例，其檢索關鍵字以輸入「F4713?」最為保險，以避免掛一漏萬。此點，與本局目前所使用之對應羅卡諾分類之設計分類關鍵詞存在著相同之問題點，今後本局應就該設計分類之第 4、5 階分類關鍵詞再做進一步之整合。

再者，於班內調查結果討論中發現學員們對意匠圖面之形態比對會有所誤解，原因是平時只注重特許之相關問題而忽略對意匠之瞭解，這也是學員來參加此次研修之最主要目的。相對的，此種只注重特許而不注重意匠之狀況亦常發生在國內多數企業及專利代理人事務所，但如以美國蘋果公司對韓國三星公司之手機設計專利侵權訴訟之巨額求償及發生在今年 2 月間之日本國內企業歐姆龍健康醫療事業股份有限公司對 TANITA 股份有限公司之體脂計意匠侵權訴訟（東京地方法院宣判：TANITA 股份有限公司必須支付 1 億 3000 萬日圓賠償金予歐姆龍健康醫療事業股份公司）來看，設計專利之威力並不亞於發明專利，或許上述之設計專利侵權訴訟案例可以打破長久以來企業及代理人事務所對於只注重發明而不注重設計之迷思。

最後，建議日後在進行台日設計專利交流時，能針對審查上之衍生設計、部分設計、圖像設計之近似性比對方法及部分設計圖式「主張設計之部分與不主張設計之部分」之明確與否之判斷做實際案例之專題式研討交流，期能對設計專利之「設計專利之近似性判斷」及「部分設計專利權範圍之明確」等核心問題有所助益。